

# 香川大学医学部附属病院の紹介&活動内容



香川大学医学部附属病院は県内唯一の大学病院として、質の高い治療や看護を提供しており、香川県の中核病院としての役割を果たしています。糖尿病の診療やケアにおいても、糖尿病センターを2010年に設置し、医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士などで構成されたメディカルスタッフがチーム医療を実践しています。その活動には、糖尿病専門医7名、糖尿病看護認定看護師1名、日本糖尿病療養指導士12名（看護師7名、管理栄養士3名、理学療法士2名）が中心的な役割を担っています。

## 1.糖尿病センター活動内容



平成29年11月の世界糖尿病デーでは、小豆島中央病院のホールで市民公開講座をかねた糖尿病イベントを開催しました。多数の患者さんや家族の方が参加され、糖尿病についての講義に熱心に耳を傾けておられました。

## 2.糖尿病看護認定看護師&看護師 CDEJ の活動内容



院内の新人看護師教育の一環として糖尿病看護研修を担当しています。研修には実技やグループワークを取り入れ、糖尿病看護の基本を学んでもらえるよう工夫しています。また、糖尿病のエキスパート研修（院内看護師向け研修で年4回～5回実施）も企画運営しています。

一方外来では、糖尿病患者の療養指導は基より、透析予防やフットケア、外来でのインスリン導入指導、糖尿病教室での講義等様々な患者支援を実施しています。今後、外来で糖尿病看護認定看護師及び看護師 CDEJ による療養指導外来を立ち上げる予定となっており、今準備に追われています。

## 3.今後の展望

当院では「糖尿病患者を支える治療・ケアの実践」を効果的に行うために、糖尿病治療・ケアに携わる多職種間での連携を深めながら、患者さんを支援するチーム医療の体制強化を図って行きたいと考えています。

<文責 藤本さとし>